

狛江高校における読書活動と課題
～ 必要な時に「読める」生徒を育てたい ～

平成 25 年度子ども読書連携フォーラム
東京都立狛江高等学校図書館 司書 千田つばさ

0. 全校的な読書活動

* 狛江タイム（朝の読書）

1. 生徒から生徒への案内

- ・ この年代の特徴から
- ・ 紹介する側の生徒の読みの深まり

* 読書マラソン・・・読書週間中に本を読んでコメントカードを書いてスタンプを集める。コメントカードと本を展示。スタンプを集めると賞品がもらえる。

- 読書の可視化
- 貸出、本の話をする光景が増えた

* 図書委員会の展示、広報

- ・ 「ほんのまくら」、福袋、クイズなどの展示
- ・ 「本を読んでいる姿が素敵なのは誰だ！」アンケートとポスター作成
- ・ 広報紙「ゆうやけこやけ」発行
 - 貸出や反応が見えると生徒のやりがいにつながる
 - 紹介をすることで読み返すなど考える読書に

* 読書会、ビブリオバトル

- 図書委員会主催で実施
- 他の生徒の読み方から学ぶ、読書の広がり

* 「図書委員が選ぶおすすめ本大賞」

都立高校司書有志で行うイベント「図書館フリーウェイ」内で発表。各校で展示など。

2. 学習や特別活動とのつながり

- ・ 目の前の課題は大きな動機となる
- ・ 教員との連携
- ・ 幅広い興味に応える

*小論文ブックリスト、ガイダンス

- 国語科、進路指導の分掌と連携したブックリスト、コーナーの設置。選択授業小論文の生徒向けには多様な資料を紹介するガイダンス
- 説明しておく、その後のレファレンスにつながる(聞きやすい)

*新書ブックトーク

- 2年生の冬休みに新書を読み始めて欲しいという先生からの依頼。学年全体で体育館で実施。
- 新書の貸出増

*調べ学習パスファインダー、授業関連展示

- 授業担当者と連携して
- 幅広い興味に応える

*文化祭、交換留学、部活動などのブックリストや展示

- 生徒の興味の高い分野に
- 担当分掌の教員と連携して

3. 課題 . . . 不読者にどう働きかけるか

- ・不読者は単なる好みの問題だけではなく、本を読むスキルが積み重なってきていない生徒がいるのではないか

*狛江タイム(朝の読書)に向けた学級文庫の設置、ブックリストの作成

- 読書習慣のない生徒は本を選ぶ段階でつまづく
- 多読でない生徒の利用が多い
- 時間を確保することで時間のない生徒たちも読書の習慣が継続

*「読み方」を学ぶ機会

- 図書館オリエンテーションでの目次や索引の指導、読書へのアニメーションなど

*気軽に読める本コーナー(クイックリーディングコーナー)

- 本を手取るきっかけに、図書館に親しんでもらう
- 読書≠小説を示す、話のネタとなる本や色々な分野をやさしく読める本

*入りやすい図書館、話しかけやすい図書館

- 継続的な関係から個別に読書案内

(都立狛江高校図書館の概要)

・学校の概要

全日制普通科

生徒数 965 名(25 年度4月9日現在) 8クラス 3学年

・図書館の概要(2012 年度末)

所蔵資料 約34,000 冊 雑誌 20 誌 新聞3紙 有料データベース1種類

広さ 三教室半+廊下

職員構成 進路・図書部 7名(担当分掌の教員と司書)

年間貸出冊数 5944 冊(生徒一人当たり貸出冊数 5.1 冊)

授業での図書館利用 のべ 45 時間(授業外での利用13科目)